

2021年1月28日
東京ガス株式会社

2020年度（2021年3月期）第3四半期決算発表説明会

Q&A

Q1：上期は、新型コロナ影響による急激な需要減少により、LNG転売等の需給調整を行うポジションにあったが、なぜ年末年始でLNGが足りなくなったのか。

A1：LNG運用の考え方としては、需要期である冬前（11月頃）にタンクを上限にしていくものであるが、今年は新型コロナ影響による急激な需要減少により、11月以前に上限を超えるリスクがあったため、夏～秋頃にかけて需給調整を行い、11月に向け徐々に在庫を積み上げた。その後、冬場の需要期のフェーズに入り、低気温の影響により規模の大きい発電専用を中心としたガス需要が急激に増加したため、機動的な配船計画の見直し等を検討したものの、世界的なLNG需給のひっ迫等が重なった。

Q2：今回の見通しにおいて、低気温影響によるガス販売量の増加、および、JEPXの価格高騰による収支悪化影響については、1月以降どのような想定としているか。

A2：ガス販売量については、新型コロナ影響による在宅時間増加に伴う需要増加の実績を踏まえ上方修正をする一方、1月以降の低気温による需要増加の影響は反映していない。また、JEPXの価格高騰については、本見通し策定の締日までの実績を反映している。

Q3：新型コロナ影響について、前回見通し▲220億円程度から、▲60億円程度に改善（+160億円程度）しているが、その理由は何か。

A3：大半は、都市ガスの粗利増加による改善（+130億円程度）である。第2Q決算時までは、都市ガス粗利については、新型コロナ影響による需要減少に伴い減益を見込んでいたが、家庭用において想定を上回る需要増加が見込まれ、増益となる見通しとなった。また、減益項目であるLNG需給調整費用については、可能な限り減益幅を抑制する努力を行った結果、50億円程度、悪化を抑制することができた。

以上